

赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画 策定検討会

第8回資料

令和6年11月18日

北区拠点まちづくり担当部拠点まちづくり担当課

目次

○第7回検討会グループワークの振り返り P.2

○現状の問題点・取り組むべき課題 P.7

震災・水害に強い市街地の形成P.7

利便性の高い交通環境の整備 P.9

まちの魅力を高める公共的空間の整備P.11

東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積 P.13

○第7回検討会グループワークのとりまとめ P.15

○第7回検討会グループワークの振り返り

※委員欄：旗立てした委員の人数

【認識】（とりまとめ）

1. 震災・水害に強い市街地の形成

▷建物の更新・防災性能向上の必要性

認識	● 古い木造の建物が密集して小学校を含めて火災や延焼の危険がある	
委員	9名	
場所	重点区域周辺エリア、2地区・3地区・小学校	
主な理由	● 昨年末の火災により顕在化した、老朽建物の密集の問題や緊急車両も入れないような狭あいな道路の問題などの解決が大きな課題と認識。	

● 災害を考えると風景を残しつつも耐震性を踏まえてある程度の開発は必要

委員	1名	
場所	重点区域	

● 気候変動(ゲリラ豪雨)による内水氾濫対策が必要

委員	1名	
場所	重点区域周辺エリア	
理由	● 西口のVivioの地下が水没したことからも、命の危険がある課題。防げるような設備があればよい	

▷道路拡幅・新たな道路ネットワーク構築の必要性

● 幅員が狭く、小学校の緊急車両の通行ができるのかが心配

委員	2名	
場所	重点区域周辺エリア／重点区域	
主な理由	● 道路幅員も非常に狭く、建物が倒れてしまえばもうどこも通れない状況で消火活動にも支障あり。 ● 小学校の周りを拡幅して、すぐに緊急車両が到着できることが必要。	

▷防災拠点となる公共施設構築の必要性

● 駅前に防災拠点となる区の施設が必要

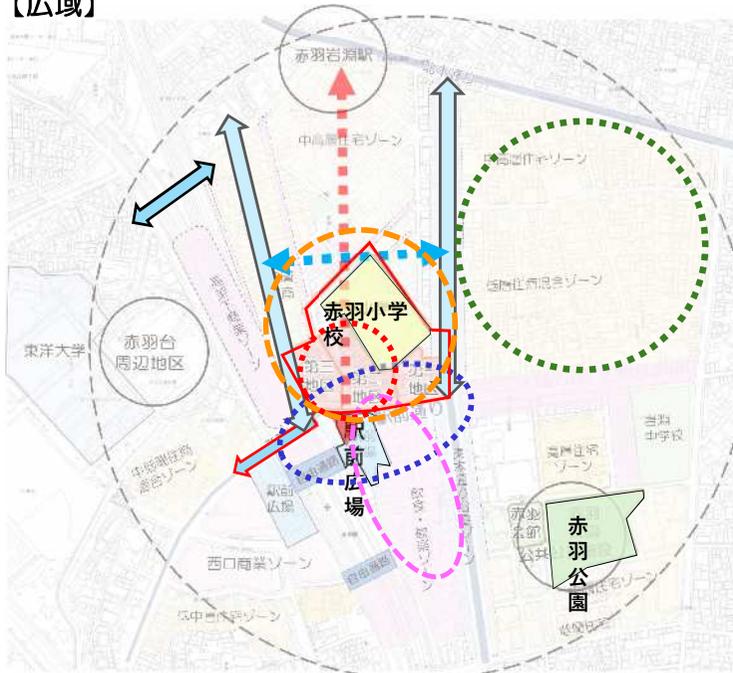
委員	4名	
場所	赤羽小学校／2地区・3地区	
主な理由	● 老朽化した木造密集地域であり、災害を考えると小学校に防災拠点となる施設が必要。 ● 駅前に災害の拠点があれば、赤羽駅利用者にも対応できて、安心なまちに繋がる。	

4. 東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

▷商業ゾーンの治安改善の必要性

認識	● 一番街付近の飲食店街は酔客やキャッチが多く、治安の問題がある	
委員	3名	
場所	東口から一番街までの飲食店街	
主な理由	● 駅前広場のキャッチ・一番街の客引きなど治安の悪さ・せんべろのマイナス面が多く、環境づくりが必要。	

【広域】



3. まちの魅力を高める公共空間の整備

▷オープンスペースの使い方の改善の必要性

認識	● 駅前の喫煙者而非喫煙者がどのように共存するかの検討が必要	
委員	1名	
場所	駅前広場	
理由	● 両者が気持ちよく過ごせるような環境づくりを。行政だけでなく民間施設も含めて協力が必要。	

▷オープンスペースの拡充の必要性

認識	● オープンスペースが不足している	
委員	1名	
場所	中高層住宅ゾーン・低層住商混合ゾーン	
理由	● 住宅エリアにオープンスペースが少ない。緑の確保が必要	

▷公園の機能更新の必要性

認識	● 赤羽公園は貴重な緑の空間だが、割れた地面がありベビーカーや車いすの通行の際に危険。噴水が稼働していない。	
委員	1名	
場所	赤羽公園	
理由	● バリアフリーの整備をして、赤羽公園に集まって避難できるようにするのが大切。	

2. 利便性の高い交通環境の整備

▷乗換え環境の改善の必要性

認識	● JRや地下鉄、バスなどの交通手段間のアクセスが悪い	
委員	2名	
場所	赤羽駅と赤羽岩淵駅の間、東口周辺	
主な理由	● JR駅と地下鉄駅・バス停がバラバラ。交通結節機能を十分に果たせていない。 ● 赤羽駅と赤羽岩淵駅をつなぐ動線（地下街など）があれば利便性がより向上する。	

▷東西方向の基盤整備の必要性

認識	● 東本通りと本町通りの間を繋ぐ道路が必要	
委員	1名	
場所	東本通りと本町通り（バス通り）に挟まれたエリア	
主な理由	● 街区割が斜めになっていて本町通りと東本通りの間の円滑な交通が確保できていない。	

▷東口と西口の連絡動線の機能向上の必要性

認識	● 赤羽駅の東口と西口間の道路は、一方通行のため円滑な移動ができていない	
委員	2名	
場所	八幡神社側・赤羽駅側東西道路	
主な理由	● 高架下の東西道路は南北共に相互通行にすべき。夕方になると必ず渋滞する。路駐など被災時の緊急車両の通行を考えると改善が必要。	

◆ 持続可能なまちづくりに向けた先進的な取り組み

▷サステナブルなまちづくりの必要性

認識	● サステナブルなまち・カーボンマイナスに対応するまちづくり	
委員	1名	
場所	周辺区域全体	
主な理由	● 100年先のことを考えた場合、一番大切なことはサステナブルなまち。カーボンマイナスやSDGsに対し、まちとしてどういった答えを出すのか。	

◆ まちづくりの検討の場の必要性

▷まちづくりの進め方の提案

認識	● 赤羽駅周辺のまちづくりを考えていくうえで、各自それぞれが見ている方向がバラバラである	
委員	1名	
場所	周辺区域全体	
主な理由	● 引き続き何らかの形で街の未来を考えていく場が必要。	

○第7回検討会グループワークの振り返り

※委員欄：旗立てした委員の人数（カッコ内の人数は、「認識」での数を示す）

【課題と方策例】（とりまとめ）

1. 震災・水害に強い市街地の形成

課題	● 浸水時でも機能する避難場所等の確保
方策例	水害時に機能する避難場所の確保
委員	1名
場所	全域
理由	・ 荒川決壊時には北区の避難対象者が11万人となっているが受け入れ態勢が整っていないため。

課題	● 都市的な排水・調整機能の向上
方策例	豪雨対策・調整池の整備を早く進める等
委員	2名
場所	全域
理由	・ 内水氾濫を止めるために迂回路をつくるなどの整備が必要。 ・ 東口は元々大きい池があった場所であり、地下水を含めて対策が必要。

3. まちの魅力を高める公共空間の整備

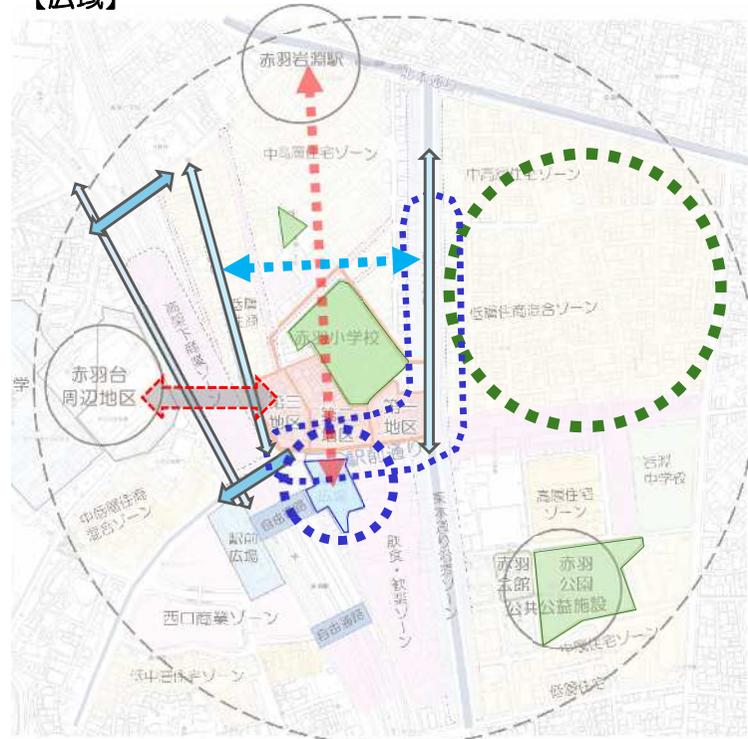
課題	● 新しくオープンスペースをつくる
方策例	住宅エリアに新たなオープンスペースをつくる
委員	1名
場所	低層住宅商業混合ゾーン・中高層住宅ゾーン
理由	・ 東本通りから東側の住宅エリアにはオープンスペースが少ないので、緑の確保が必要。

課題	● 緑豊かなまちづくりの実現
方策例	土地利用のゾーニングの際には緑の不足も含めて検討する
委員	2名
場所	駅前広場／赤羽公園・赤羽小学校・三角公園
理由	・ 自然・緑を入れることで新たな課題解決に繋がる。 ・ 赤羽公園や赤羽小学校、三角公園などにある大きな木など豊かな緑を大事にする

4. 東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

課題	● 自然発生的なゾーニングを適材適所に再構成
方策例	工場跡地にたまたまつくられた赤羽公園の適地を含め、今後100年を見据えたゾーニングを検討する
委員	5名
場所	区域全体
主な理由	・ 小学校・赤羽会館などの大きな区画のゾーニングを含め、現在のまちを広域的に捉えて、将来を見据えたまちづくりを考えるべき。 ・ 大きなゾーニングを駅前から始めるべき

【広域】



◆コミュニケーションの場の醸成（まちづくりの進め方）

課題	● ソフト面でのまちづくりの推進
方策例	コミュニケーションの場づくり（大家/テナント、来街者、新旧住民、外国人居住者etc）
委員	3名
場所	全体
理由	・ 外国人居住者が増加している。震災時に連携ができるようにコミュニケーションの場ができればよい。

課題	● ソフト面でのまちづくりの推進
方策例	エリアプラットフォームの立ち上げ
委員	4名
場所	全域
主な理由	・ 行政主導ではなく、住民主導の気兼ねなく話せる場がほしい。 ・ 住民が活発に議論できる場があればよい。 ・ エリアプラットフォームの立ち上げるなど、まちづくりを検討する場をつくった方がよい。

2. 利便性の高い交通環境の整備

課題	● まちの景観向上と歩行環境の改善
方策例	歩道上の駐輪場を集約（移設）する
委員	1名
場所	駅前通りと東本通り
理由	・ 利用者からすれば路上の駐輪場は利便性は高いと思うが、居住者からすると、見栄えは良くない。馬鹿祭りの際も歩道に駐輪場があって見学がしにくい。よりよい形で集約できたらよい。

課題	● 広域での取り組みの必要性（駐車場・駐輪場）
方策例	まちづくりのタイミングに合わせて、駐輪場等を移設・集約等により再整備を行う
委員	2名
場所	駅前広場
理由	・ このタイミングで駐輪場の在り方を見直すべき

課題	● 東西を繋ぐ車両動線の整備
方策例	東西の車両の行き来がしやすくなる道路の整備
委員	8名
場所	JR高架下（南北の東西道路）／重点区域周辺
主な理由	・ 南側の東西道路を相互通行にすべき。 ・ 東口と西口間の車両の行き来をよくすれば、交通事故の問題や歩行者の安全のどちらにも取り組んでいける。 ・ 街区割が斜めになっていて本町通りと東本通りの間の円滑な交通が確保できていない。

課題	● 東口と西口を繋ぐ歩行者動線の整備
方策例	人の行き来ができるように赤羽台ゲートウェイと東口を橋か地下で繋げる工事をする
委員	1名
場所	JR高架下

課題	● 交通手段間のアクセス性の向上
方策例	赤羽駅東口と赤羽岩淵駅をつなぐ南北の歩行者動線の整備
委員	（2名）
場所	赤羽駅と赤羽岩淵駅の間、東口周辺
主な理由	・ JR駅と地下鉄駅・バス停がバラバラ。交通結節機能を十分に果たせていない。 ・ 赤羽駅と赤羽岩淵駅をつなぐ動線（地下街など）があれば利便性がより向上する。

◆持続可能なまちづくりに向けた先進的な取り組み

課題	● サステナブルなまちづくり・低炭素に対応するまちづくりの実現
方策例	2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す
委員	（1名）
場所	周辺区域全体
主な理由	・ 100年先のことを考えた場合、一番大切なことはサステナブルなまち。カーボンマイナスやSDGsに対し、まちとしてどういった答えを出すのか。

○第7回検討会グループワークの振り返り

※委員欄：旗立てした委員の人数（カッコ内の人数は、「認識」での数を示す）

【課題と方策例】（とりまとめ）

1. 震災・水害に強い市街地の形成

課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物の防災性能の向上 ● 周辺街区も含めた防災性能の向上
方策例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古い木造の建物(飲食店等)が密集している状態から火災や地震に強い建物への転換が必要 ・ 重点区域以外の老朽化が進む周辺街区の防災性能の向上
委員	1 2名
場所	重点区域周辺エリア 
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽木造建物を火災や地震に強い建物へ転換することが一番進めるべき課題。 ・ 重点区域だけでなく、周りも含めた周辺一帯が消防法の中で危険なエリア。重点区域に限らず防災性能の向上が求められる。

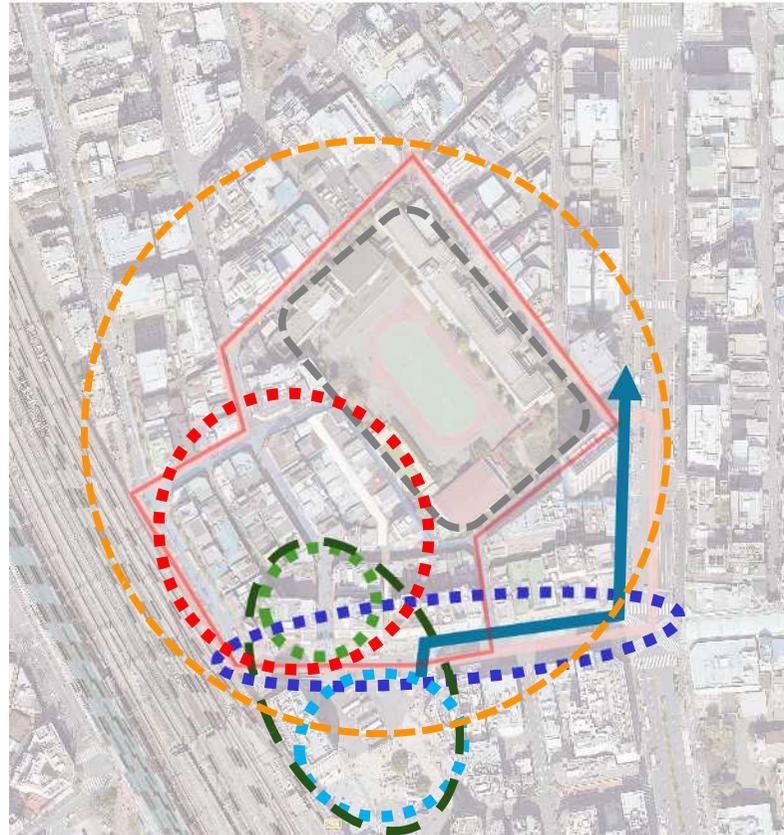
課題	● 緊急車両の通行の確保
方策例	地域や小学校への緊急車両の通行を可能とする十分な幅員を有する道路の整備
委員	1名
場所	重点区域周辺エリア 
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急車両の通行を確保することによって必然的に建物を変えないといけない。道路の拡幅整備によって防災性能の向上も図れる。

課題	● 駅前の公共施設の整備・活用等
方策例	駅前に公共施設を整備し災害時に災害対応の拠点として活用する
委員	(4名)
場所	赤羽小学校 / 2地区・3地区 
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前に災害対応拠点施設があれば、赤羽駅利用者にも対応できて、安心なまちに繋がる。

課題	● 被災時の駅利用者の避難先の整備
方策例	被災時の駅利用者を受け入れるスペースの確保
委員	1名
場所	赤羽駅周辺 
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤羽駅は乗り換えへのアクセスが良く、利用者の多い駅であるため、被災時に電車が止まれば駅の外に人が溢れることが想定される。そのような状況でも、ある程度の安全が保たれる場所が必要。

課題	● オープンスペースの確保
方策例	駅前にオープンスペースを確保する
委員	1名
場所	駅前広場 
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きい空地は避難や火災の焼け止まり等に非常に有効という観点もある。広小路のようなものがあれば、周辺の方の安全がより高まる。

【重点区域周辺】



2. 利便性の高い交通環境の整備

課題	● 公共交通機関利用者の乗り換えを円滑化
方策例	分散している公共交通機関のアクセス性を向上 分散しているバス停を駅前に集約
委員	3名
場所	赤羽岩淵駅へ向かう動線上 / 駅前広場と駅前通り周辺 
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ バス停の集約はアンケートの結果から見ても大切。岩淵駅へは一番街を避けて東本通りを通る人が多いので、そのルート上にバス停を集約する方が良い。 ・ 交通の結節点は大きな赤羽の魅力の一つ。分散しているバス停の集約などもあるが駅前広場の整備の考え方は、もう一度検討した方が良い。

3. まちの魅力を高める公共空間の整備

課題	● 今ある機能の見直しや再構成
方策例	喫煙所や稼働していない噴水の見直しや再構成により魅力ある駅前の顔をつくる
委員	4名 
場所	一番街の入り口周辺を含めた駅前全体
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能を分散させて、今あるもので赤羽の魅力を向上する方法を考えた方がよい。 ・ 駅前広場より広範囲で機能の再構成をすべき。

課題	● 多様な人々にとって快適な駅前空間づくり
方策例	喫煙者と非喫煙者が共存できる等多様な人々にとって快適な駅前空間づくり（分煙）
委員	1名 
場所	駅前広場

課題	● ゆとりある駅前空間づくり
方策例	ゆとりがある駅前空間の創出
委員	2名 
場所	駅前広場
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆとりある滞在しやすい空間に、抜本的にきれいにしてほしい

課題	● 新しくオープンスペースをつくる
方策例	新たなオープンスペースをつくる
委員	3名 
場所	一番街の入口付近 / 2・3地区・小学校
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番街側は雑然としているため、公開空地のような形でよいから新しいオープンスペースがあった方が歩きやすく、見通しも良くなる。 ・ 2・3地区・小学校を含むエリアに新しいオープンスペースをつくりたい

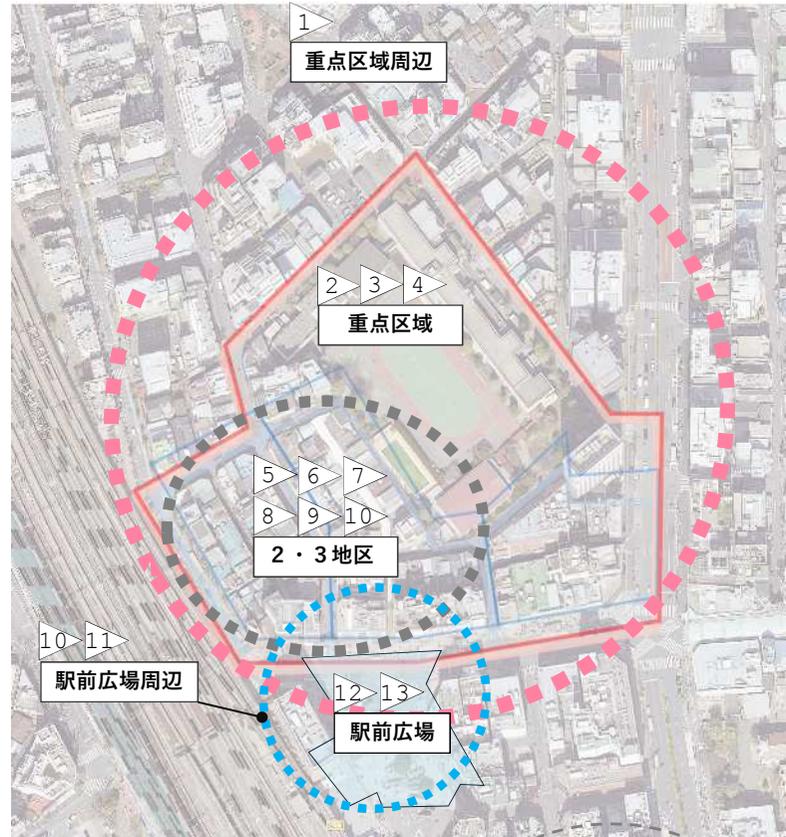
4. 東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

課題	● 治安の改善
方策例	安心して歩いて楽しめる商業空間を整備する
委員	7名 
場所	一番街の入り口周辺を含めた駅前全体 / 2・3地区
主な理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤羽駅降りてすぐに若い女の子と隣に怖いお兄さんがいる状況は、来街者からすると非常に印象が悪い。治安を改善して誰でも楽しめる赤羽になってほしい。 ・ 駅前広場のキャッチなど治安が悪い。もう少し環境づくりをしていく必要がある ・ 客引き防止のバトロールをしているが改善しない。

課題	● 利便性の高い住環境づくり
方策例	生活を支えるような買い物ができる場所を整備する
委員	1名 
場所	重点区域周辺エリア
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物ができるような場所を整備してほしい。

機能	1. 全体に大きく目的を持った施設
委員	1名
場所	重点区域周辺
理由	・あまり小さなパーツとしない。子供のものなのか、パーツパーツになりたくない。まち全体の話。

【重点区域周辺】



機能	2. 緑があるオープンスペース
委員	1名
場所	重点区域
理由	・2地区、3地区のところで、緑あるオープンスペースがあったらよい。

機能	3. 震災・水害に強い市街地の形成
委員	1名
場所	重点区域

機能	4. 情報発信機能
委員	1名
場所	重点区域
理由	いろいろな意味で情報発信機能のある施設

機能	5. 再開発
委員	1名
場所	2・3地区
理由	再開発による更新でまちの機能の向上が必要

機能	6. 客引きがない、チェーン店ばかりではない、大人も子供も入りやすい色々なジャンルの飲食店
委員	1名
場所	2・3地区

機能	7. 集客施設(シネコン・アリーナ)
委員	1名
場所	2・3地区

機能	8. スポーツやイベントもできるアリーナ的な施設
委員	1名
場所	2・3地区

機能	9. 複合施設
委員	1名
場所	2・3地区



機能	10. 駅周辺の安全を高めて、地域全体の安心に繋げる
委員	1名
場所	2・3地区(再開発)+駅前広場周辺

機能	11. 多様な世代がお互いに存在を認識しつつ、過干渉もしない短時間から長時間、自由な用途で使えるフリースペース
委員	1名
場所	駅前広場周辺
理由	集会所などのスペースが駅前であればよい。

機能	12. 多様な世代が優しい気持ちになれるようなオープンスペース
委員	1名
場所	駅前広場
理由	

機能	13. 緑豊かに人が滞留できる駅前
委員	1名
場所	駅前広場
理由	駅前のバス空間を含めての整備

機能	14. 赤羽公園からまちづくりを考え発展させていきたい
委員	1名
場所	赤羽公園
理由	・住民目線だと、公園の魅力がそのまちの魅力を最大限発揮できると考える。

機能	15. 清潔で安心・安全な環境
委員	1名
場所	周辺区域全体

震災・水害に強い市街地の形成 (現状の問題点)

新河岸川

▶建物更新の必要性

▷老朽木造建物が密集しており、小学校を含めて火災や延焼の危険があり、建物の更新が求められている。

▶耐震性強化の必要性

▷災害を考えると風景を残しつつも耐震性を踏まえてある程度の開発は必要



▶気候変動による内水氾濫対策の必要性

▷ゲリラ豪雨による地下階の水没を防衛できる設備が必要。



▶防災拠点となる公共公益施設の必要性

▷小学校に防災拠点となる施設が必要。
▷駅前に災害拠点があれば、駅利用者にも対応できて、安全安心なまちにつながる。

▶道路拡幅・新たな道路ネットワーク構築の必要性

▷幅員が非常に狭く、建物倒壊時は消火活動に支障あり。小学校の緊急車両の通行ができるのかが心配。



▶駅前広場におけるオープンスペースの確保の必要性

▷駅前広場に十分なオープンスペースがないため、被災時の安全性が確保できない

赤羽台周辺地区

赤羽台
ゲートウェイ

駅前広場
東口

赤羽駅

赤羽会館

赤羽公園



震災・水害に強い市街地の形成 (取り組むべき課題)

- 建物の防災性能の向上
- 周辺街区も含めた防災性能の向上

➢ 重点区域の周辺も含めて、老朽木造建物（飲食店等）が密集している状態から、火災や地震に強い建物へ転換を図る。

● 緊急車両の通行の確保

➢ 地域や小学校への緊急車両の通行を可能とする十分な道路幅員を確保する。

● 都市的な排水・調整機能の向上

➢ ゲリラ豪雨等による内水氾濫等の災害に備えるため、排水・調整機能の向上を図る。

● 浸水時でも機能する避難場所等の確保

➢ 水害時に機能する安全な避難場所を確保する。

● 公共施設（災害対応拠点）の整備・活用

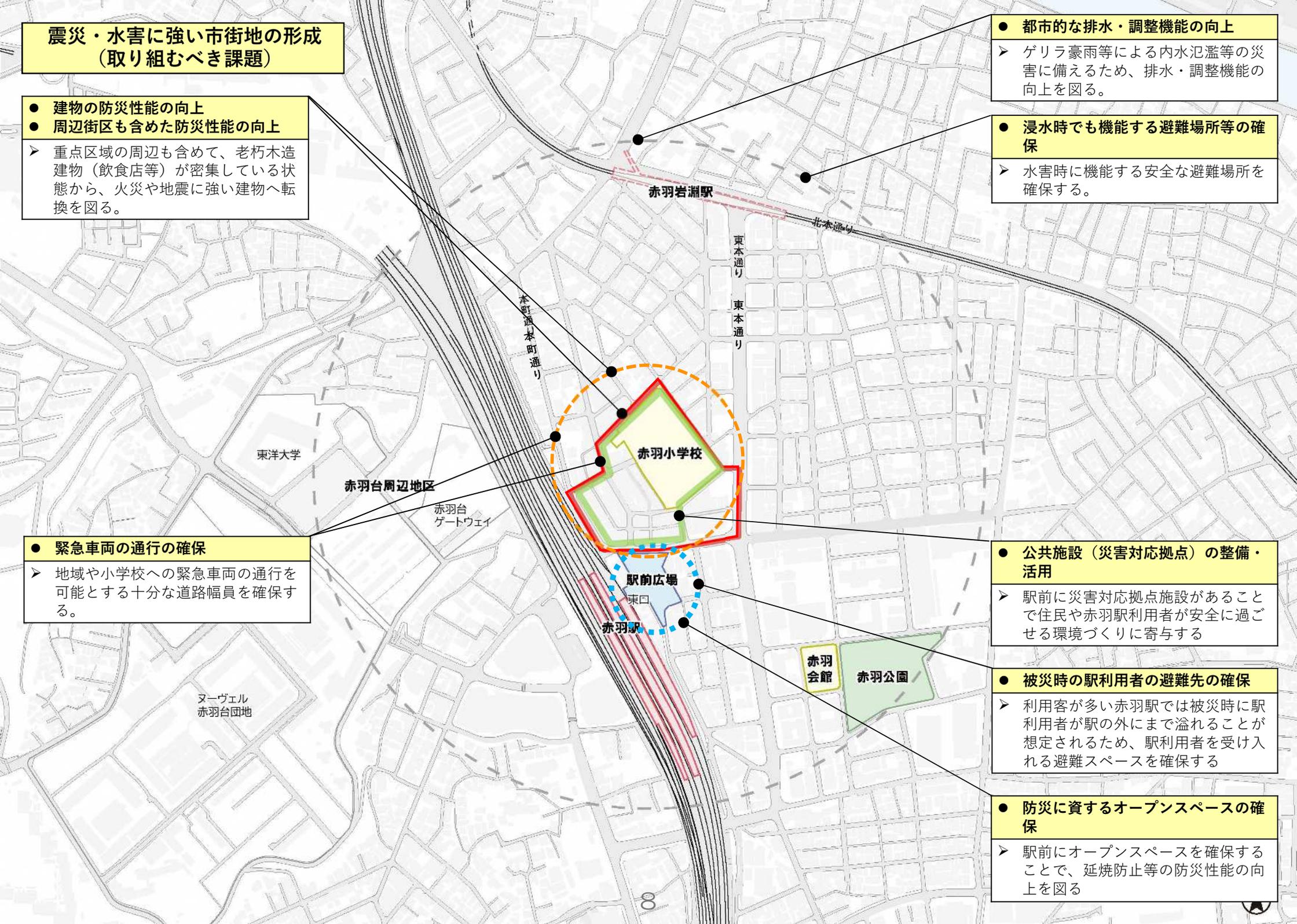
➢ 駅前に災害対応拠点施設があることで住民や赤羽駅利用者が安全に過ごせる環境づくりに寄与する

● 被災時の駅利用者の避難先の確保

➢ 利用客が多い赤羽駅では被災時に駅利用者が駅の外にまで溢れることが想定されるため、駅利用者を受け入れる避難スペースを確保する

● 防災に資するオープンスペースの確保

➢ 駅前にオープンスペースを確保することで、延焼防止等の防災性能の向上を図る



利便性の高い交通環境の整備 (現状の問題点)

▶東西方向の基盤整備の必要性

▷街区割が斜めになっていて本町通りと東本通りの間の円滑な交通が確保できていない

▶東口と西口の連絡動線の機能向上の必要性

▷赤羽駅の東口と西口間の道路は、夕方になると必ず渋滞する。緊急車両の通行を考えると改善すべき

▶東西方向の歩行者動線強化の必要性

▷線路で分断されており、赤羽台周辺地区と東口周辺を直接つなぐ歩行者動線がない

▶東口と西口の連絡動線の機能向上の必要性

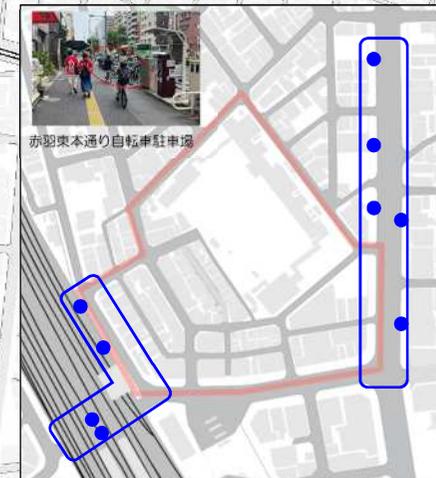
▷赤羽駅の東口と西口間の道路は、一方通行のため円滑な移動ができていない。路駐も多く緊急車両の通行を考えると改善が必要。

▶乗換環境改善の必要性

▷JRや地下鉄、バスなどの交通手段間のアクセシビリティが悪い

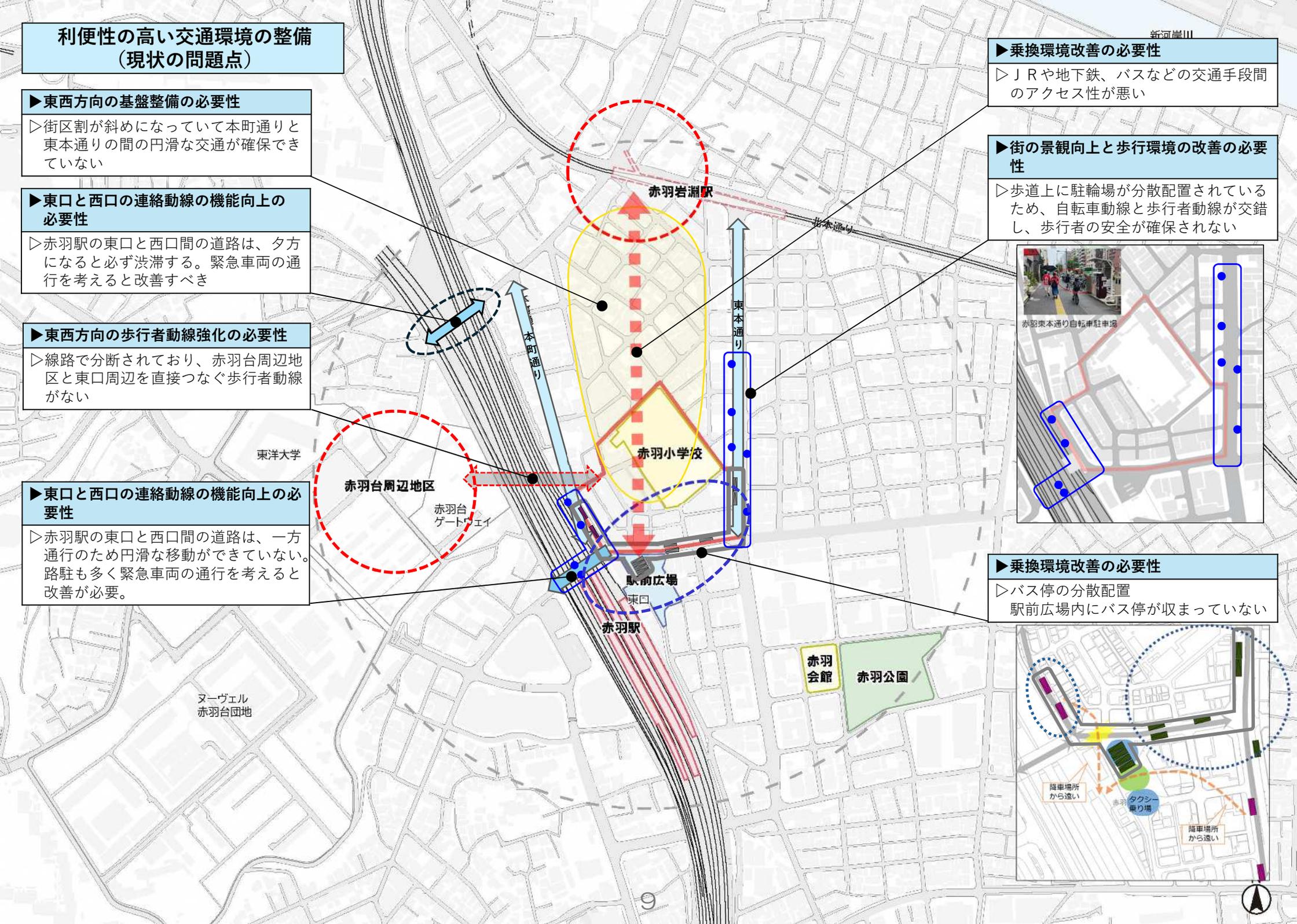
▶街の景観向上と歩行環境の改善の必要性

▷歩道上に駐輪場が分散配置されているため、自転車動線と歩行者動線が交錯し、歩行者の安全が確保されない



▶乗換環境改善の必要性

▷バス停の分散配置
駅前広場内にバス停が収まっていない



利便性の高い交通環境の整備 (取り組むべき課題)

● 東口の東西を結ぶ車両動線の確保

- 地区内の主要な道路である東本通りと本町通りを東西方向に結ぶ車両動線を整備すること等により円滑な移動を確保する。

● 東口と西口をつなぐ連絡動線の強化

- 東口と西口をつなぐ車両動線の機能を向上させることにより円滑な移動を確保する。

● 東口と西口を繋ぐ歩行者動線の強化

- 鉄道線路によって分断されている東口と西口を繋ぐ歩行者動線を増強する。

● 東口と西口をつなぐ連絡動線の強化

- 東口と西口をつなぐ車両動線の機能を向上させることにより円滑な移動を確保する。

● 交通手段間のアクセス性の向上

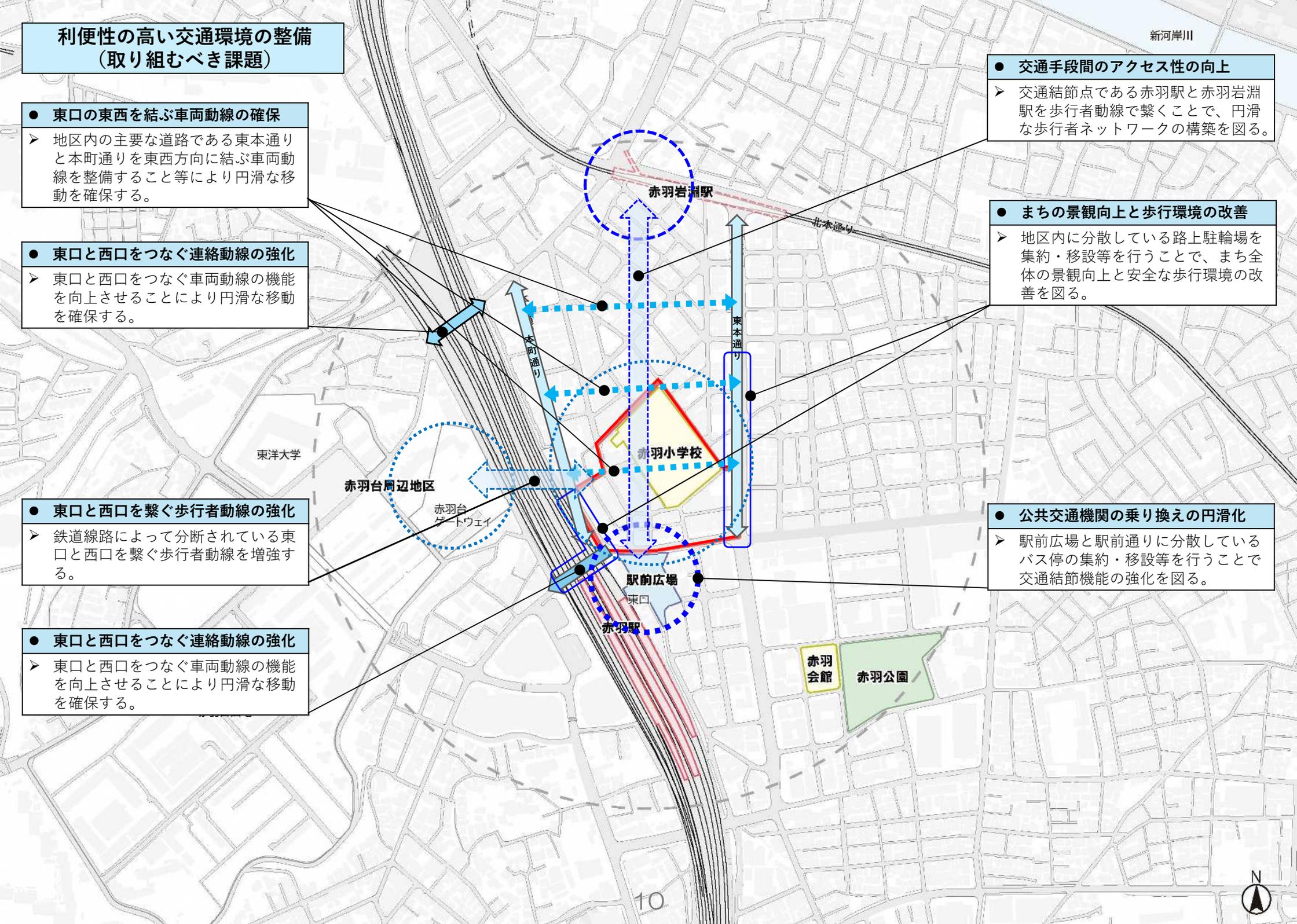
- 交通結節点である赤羽駅と赤羽岩淵駅を歩行者動線で繋ぐことで、円滑な歩行者ネットワークの構築を図る。

● まちの景観向上と歩行環境の改善

- 地区内に分散している路上駐輪場を集約・移設等を行うことで、まち全体の景観向上と安全な歩行環境の改善を図る。

● 公共交通機関の乗り換えの円滑化

- 駅前広場と駅前通りに分散しているバス停を集約・移設等を行うことで交通結節機能の強化を図る。



**まちの魅力を高める公共的空間の整備
(現状の問題点)**

新河岸川

▶ 緑空間・オープンスペースの確保の必要性

- ▷ 周辺区域全域で緑空間・オープンスペースが不足している
- ▷ 東本通り東側の住宅エリアに緑空間・オープンスペースが不足している



赤羽岩淵駅

東本通り

北本通り

本町通り

住宅エリア

東洋大学

赤羽台周辺地区

赤羽台
ゲートウェイ

赤羽小学校

駅前広場

東口

赤羽駅

赤羽会館

赤羽公園

▶ 赤羽公園の機能更新の必要性

- ▷ 稼働していない噴水や、ベビーカーや車いすの移動が危険な割れた地面など、施設全体の老朽化に対応した機能更新が必要

▶ 駅前広場の機能改善・空間の使い方の改善の必要性

- ▷ 駅前広場には喫煙所や稼働していない噴水があり、駅前の顔としてふさわしくない
- ▷ 駅前広場にはゆとりある空間・休めるスペースが不足している
- ▷ 分煙対策ができていない



まちの魅力を高める公共的空間の整備 (取り組むべき課題)

● 今ある機能の見直しや再構成

- 駅前広場より広範囲で機能の分散・見直し・再構成により、魅力ある駅前の顔をつくる

● 新たなオープンスペースの創出

- 一番街の入口など重点区域内に新たなオープンスペースを確保する

● 多様な人々にとって快適な駅前空間づくり

● ゆとりある駅前空間づくり

- 効果的な分煙対策を行うなど、誰にとっても滞在しやすいゆとりある駅前空間に再編する

● 緑豊かなまちづくりの実現

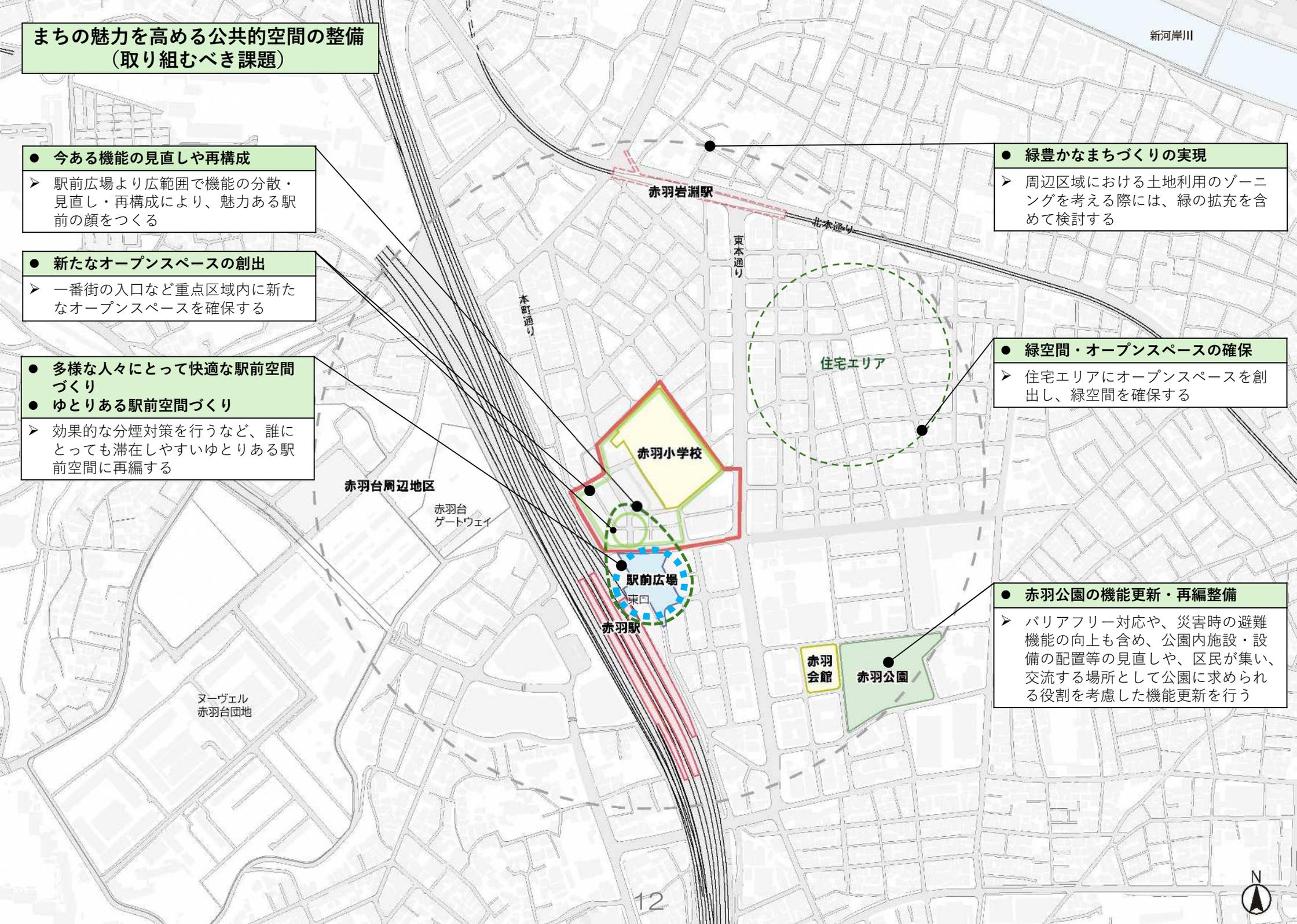
- 周辺区域における土地利用のゾーニングを考える際には、緑の拡充を含めて検討する

● 緑空間・オープンスペースの確保

- 住宅エリアにオープンスペースを創出し、緑空間を確保する

● 赤羽公園の機能更新・再編整備

- バリアフリー対応や、災害時の避難機能の向上も含め、公園内施設・設備の配置等の見直しや、区民が集い、交流する場所として公園に求められる役割を考慮した機能更新を行う



東京の北の玄関口にふさわしい
都市機能の集積
(現状の問題点)

新河岸川

▶ 将来を見据えた土地利用のゾーニングの必要性

▷ 赤羽のまちが自然発生的に発展してきた歴史があり、まちを広域的にとらえ100年先を見据えた土地利用のゾーニングが必要

▶ 生活を支える住環境の改善の必要性

▷ 大規模なスーパーがなくなり、生活利便施設が不足している

▶ 商業ゾーンの治安改善の必要性

▷ 東口から一番街までの飲食店街は酔客やキャッチ・客引きが多く、治安の問題があり、安全で快適な環境づくりが必要

赤羽岩淵駅

東本通り

北本通り

本町通り

東洋大学

赤羽台周辺地区

赤羽台
ゲートウェイ

赤羽小学校

駅前広場

東口

赤羽駅

赤羽
会館

赤羽公園

ヌーヴェル
赤羽台団地

13



東京の北の玄関口にふさわしい
都市機能の集積
(取り組むべき課題)

新河岸川

● 土地利用の最適化・ゾーニングを再構成

- 商業施設・住宅・公共施設のバランスを考慮し、地域全体の活性化を図る土地利用の最適化を行い、ゾーニングを再構成する

● 利便性の高い居住環境の形成

- 暮らしを支える生活利便機能を確保する

● 歩いて楽しめる安全で快適な商業環境の形成

- 東口から一番街までの商業ゾーンを、歩いて楽しめる安全で快適な商業環境に再編する

赤羽岩淵駅

東本通り

北本通り

本町通り

東洋大学

赤羽台周辺地区

赤羽台
ゲートウェイ

赤羽小学校

駅前広場
東口

赤羽駅

赤羽
会館

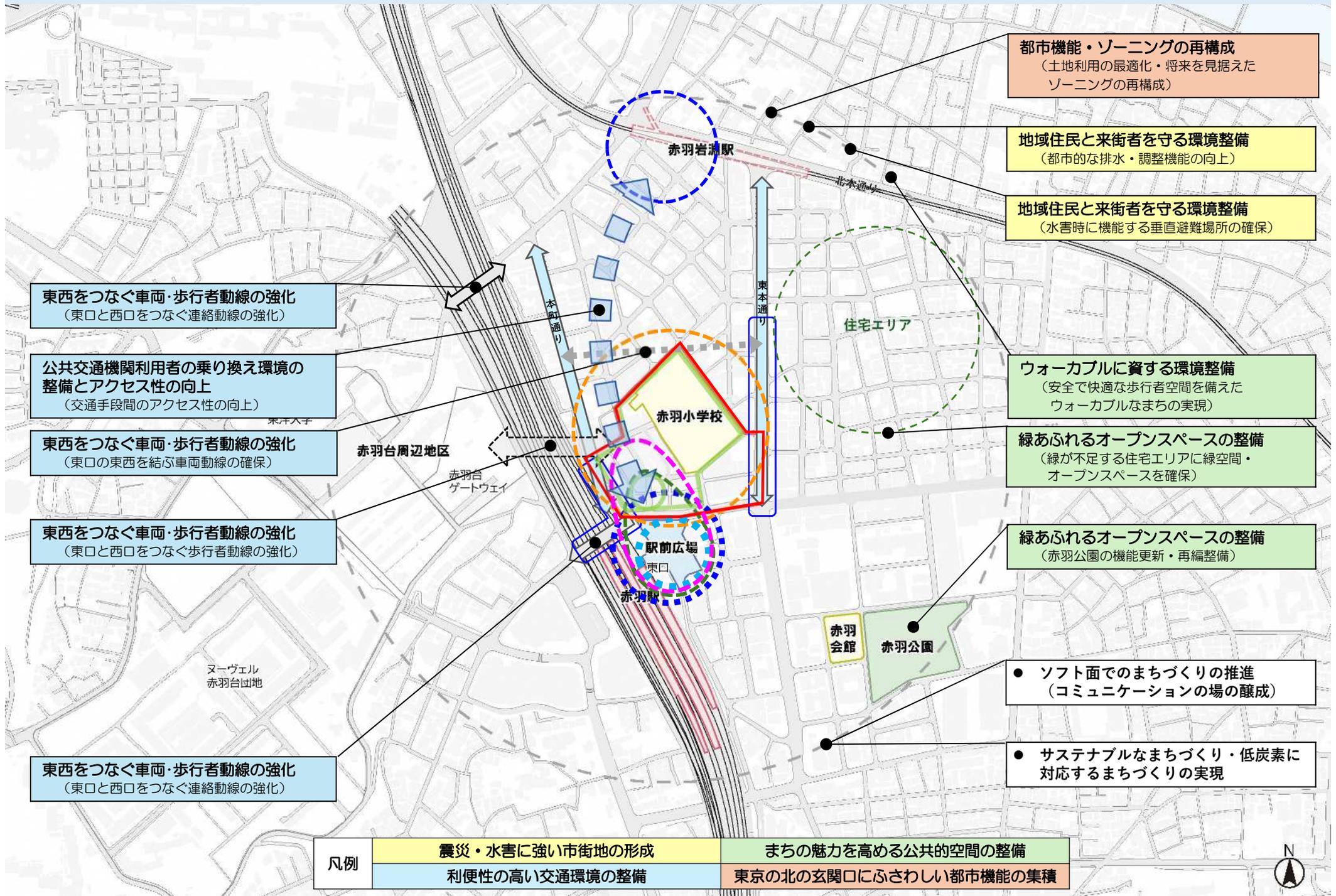
赤羽公園

ヌーヴェル
赤羽台団地

14



○第7回検討会グループワークのとりまとめ



都市機能・ゾーニングの再構成
 (土地利用の最適化・将来を見据えたゾーニングの再構成)

地域住民と来街者を守る環境整備
 (都市的な排水・調整機能の向上)

地域住民と来街者を守る環境整備
 (水害時に機能する垂直避難場所の確保)

ウォーカブルに資する環境整備
 (安全で快適な歩行者空間を備えたウォーカブルなまちの実現)

緑あふれるオープンスペースの整備
 (緑が不足する住宅エリアに緑空間・オープンスペースを確保)

緑あふれるオープンスペースの整備
 (赤羽公園の機能更新・再編整備)

● ソフト面でのまちづくりの推進
 (コミュニケーションの場の醸成)

● サステナブルなまちづくり・低炭素に対応するまちづくりの実現

東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化
 (東口と西口をつなぐ連絡動線の強化)

公共交通機関利用者の乗り換え環境の整備とアクセス性の向上
 (交通手段間のアクセス性の向上)

東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化
 (東口の東西を結ぶ車両動線の確保)

東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化
 (東口と西口をつなぐ歩行者動線の強化)

東西をつなぐ車両・歩行者動線の強化
 (東口と西口をつなぐ連絡動線の強化)

凡例	震災・水害に強い市街地の形成	まちの魅力を高める公共的空間の整備
	利便性の高い交通環境の整備	東京の北の玄関口にふさわしい都市機能の集積

○第7回検討会グループワークのとりまとめ

